

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

| | |
|-----------|---|
| タイトル | 近未来は? |
| 別タイトル | Near future |
| 作成者(著者) | 高橋, 寛 |
| 公開者 | 東邦大学医学会 |
| 発行日 | 2021.03.01 |
| ISSN | 00408670 |
| 掲載情報 | 東邦医学会雑誌. 68(1). p.1 1. |
| 資料種別 | 学術雑誌論文 |
| 内容記述 | 巻頭言 |
| 著者版フラグ | publisher |
| JaLDOI | info:doi/10.14994/tohoigaku.2020_024 |
| メタデータのURL | https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD19180600 |

近未来は？

高橋 寛

東邦大学医学部医学科整形外科

令和2年の2月中旬、若手医師とUSAで行われた国際学会に参加してきた。

出発前、現地の知人にCOVID-19の影響で入国できない可能性は無いのか？現地での状況はどうか？等、色々確かめていたが、“USAではインフルエンザははやっているがCOVID-19は関係ない。中国では流行っているが、日本人は大丈夫！”と言われ、疑心暗鬼のまま出国した。

直前に、中国からは入国制限がされていた。

当然、学会会場では誰一人マスクなどつけていなかったが、幸い無事に帰国できた。

しかしながら、羽田に到着したら日本の様相が大きく変わっていた。

その後の状況は皆さんのご存じの通りです。

日本でもロックダウンが行われ、研究会は全て中止、学会も以前では考えられなかったWEB開催、ハイブリッド開催となった。

小学校から高校生までの子供たちも3月頃から6月頃まで休校になり、WEBでの授業となった。

こうなるといままですべてのことに触れたことの無いような人も、WEBを使わざるを得ない状況になってしまった。その後の人間の環境に対する適応能力は恐ろしいものであった。

ZOOM?何それ?と言っていた方々がすぐに慣れ、今では普通にWEB会議にWEB授業をするようになった。

わずか1年前には考えられなかったことが日常になっている。

しかしWEB講義・会議をして行くにつれて、物足りなさを感じるようになった。

WEBを通してのコミュニケーションには限界もあり、味気なさを感じる。つまり上手に使わないと情報伝達のみの方通行になり、双方向のコミュニケーションが取れない。

やはり、実際に人と会ってコミュニケーションを取れるに超したことはない。

最近では、新しい技術の習得のためにWEB上での講習

会なども行われているが、実際に手を動かさなくては感触もつかめない。手術のビデオを見るのは勉強にはなるが、実際にやってみないと難しさ、コツは分からない。

留学を含めた異文化コミュニケーションも同様である。

留学の醍醐味は、実際に現地に行って異文化の中で生活をする事にある。異文化の地で生活することによって度胸もつくし、何よりも日本以外の人々の考え方や医療を学ぶことは大変貴重な経験となる。

今年、留学を予定していた全国の若手医師はことごとく留学を延期あるいは断念せざるを得なくなったと聞いた。なかにはやっと行けたにもかかわらず、大学内に出入り禁止でありWEBを使った会議をしているとか？これでは時差はあっても日本にいるのと変わらない。

当科でも4月からフランスに若手医師を留学させる予定であったが、ヨーロッパでのCOVID-19流行のために直前に中止になってしまった。

折角、視察を兼ねて20年来の旧友とパリで再会して旧交を暖めようと思っていたのに残念であった。

さて、今はまだwithコロナですが、流行が去った後はどんな世界になっているのでしょうか？

元通りの世の中になるのでしょうか？海外留学はできるようになるのでしょうか？

まさかWEB留学？

今回の出来事のように、何かをきっかけに、今までの常識、日常はあっという間に変わってしまうかもしれません。

今後、医療の世界ではArtificial intelligence (AI)を用いた画像診断、外科系の分野ではロボット手術が大きく発展していそうですが、なにかをきっかけにその歩みが急速に早まることもあり得ます。

その際に、生き残れるように若手医師は、近未来にはどう物事が変わるのか、何が世間で必要とされているのか、どうしたら実現できるのか？などを常に広くアンテナを張って考えて行く必要があります。

DOI: 10.14994/tohoigaku.2020-024